

平成 30 年度 経営協議会の学外委員からの意見等に対する対応状況

経営協議会の学外委員からの意見

(トランスジェンダー学生の受入れについて)

- ・トランスジェンダー学生へ適切に対応するためには教職員及び在学生に対する教育が必要ではないか。
- ・実際の受入れまでに在学生への説明を十分に行っていただきたい。

(平成 30 年 6 月 26 日開催 第 1 回経営協議会)

意見に対する対応

・従前より文理融合リベラルアーツ科目、専門科目等においてジェンダーに関わる教育を実施してきた。さらに、平成 31 年度より、ジェンダーや性・性別に関する科目を体系化し、学部・学科を超えて、全学部の学生が履修できる「全学ジェンダー学際カリキュラム」を開始した。本カリキュラムでは、ジェンダーに関わる幅広い知識を系統的に身につけることが可能である。

・トランスジェンダー学生受入れに際し、受入準備プロジェクトチームを設置し、学生生活上必要とされる対応・配慮などの詳細についてガイドラインを作成した。平成 31 年 4 月にガイドラインを策定し、学内外に公表した。

<http://www.ocha.ac.jp/news/20190528.html>

・平成 30 年度に、学部生、大学院生を対象として「トランスジェンダー学生の受入について考える」と題した学生説明会を複数回開催した。説明会では、大学の方針及び受入れに関する準備状況等について、また、ジェンダー研究を専門とする本学教員がトランスジェンダーの現状を説明した。当日は質問・意見に回答する時間を設け、学生から活発な質疑があった。

・教職員に対しても全学説明会を開催し、大学の方針等の説明を行った。